

火葬場整備を考えるⅡ

牧之原市と共同運営している火葬場「南遠地区聖苑」は、昭和56年に建設したもので、35年が経過しています。老朽化した施設を建て替えるため、本市は単独で火葬場の整備に向けた基本構想を策定しています。

問い合わせ 環境課 ☎0537⑧1162

南遠地区聖苑の現状

現在の火葬場は、火葬棟と待合棟が離れているため、室外の渡り廊下を30メートルほど歩いて移動しなければなりません。待合棟の待合室の椅子はベンチに座布団が敷かれた古めかしいもので、2階へのエレベーターもなく、高齢者や障がい者への配慮がされているとはいえません。火葬棟には風除室がないため、真冬は寒さを我慢しながら故人とのお別れをしなければなりません。炉前ホールも個別に仕切られておらず、遺族のプライバシーが確保されていないのが現状です。



南遠 渡り廊下



南遠 待合室



南遠 炉前ホール

近隣の火葬場では

掛川市と菊川市で運営している火葬場「東遠地区聖苑」(平成25年完成)は、高齢者をはじめ女性や小さな子ども、障がい者にも十分配慮された施設となっています。

自然光を多く取り入れたゆとりのある空間は、故人の遺徳をしのぶ場にふさわしい施設となるよう設計されています。

明るく開放的なロビーとプライバシーが確保された告別室、厳かな収骨室、多目的トイレや授乳室・キッズルームも備えています。



東遠 ロビー



東遠 待合室



東遠 告別室



東遠 収骨室

なぜ火葬場は必要か

故人との最後のお別れをする場が火葬場です。そこは愛する家族や地域のために尽くしてくれた故人に、あらためて感謝し、その死を受け入れるための厳粛な場所です。

火葬場整備には多額の事業費がかかると思えますが、建設を取りやめたり、先送りできるものではありません。現状と将来を見据えた中で、このまちの規模に応じた火葬場をつくるのが大切です。

この世に生を受けた私たちが必ず最後にお世話になる施設「火葬場」は、市内のどこかに建設しなければなりません。

皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。